＜資料３＞

ろう学校幼稚部において、やり取りが成立するための工夫の観点表

宮城県立ろう学校小牛田校

ろう学校幼稚部において、やり取りが成立するためには、「子供の視点に立つ」ことを基盤とした上で、以下の観点に基づいた工夫をすることが必要と考える。当校では、それによって、幼児がやり取りの意味を理解し、自分の思いを表現できるようになる保育を目指したいと考えた。

やり取りが成立するための工夫

①　活動に見通しが持てるような視覚的教材の工夫

②　互いのことばの理解が図れるような支援

③　子供の興味・関心を生かした身近な生活の中からの教材選定

④　活動の意欲を高め、子供同士のやり取りを促す教材や場の設定

子供の視点に立つ

＜「子供の視点に立つ」ためのチェックポイント＞

〇子供と気持ちを共有し、話したい関係作りができているか。

〇子供の実態に合ったコミュニケーション手段を用いて、共感的にやり取りをしたり、情報を正確に伝えたりしているか。

〇子供の思いや願い、興味・関心を把握し、子供が経験したことをもとに話し合っているか。

〇子供が主体的に活動できるような工夫をしているか。

〇話し合いやつぶやき、行動観察等で子供のよさや可能性を共感的に評価しているか。

〇文法的な誤りや表現の不足に対しては、やり取りの中で意欲付けを図りながら、自分から気付いて修正するように支援しているか。

＜やり取りが成立するための工夫の具体例＞

①活動に見通しが持てるような視覚的教材の工夫

・紙芝居の使用やペープサートの提示によって、子供は劇の流れを理解して活動に参加できる。（劇あそび）

・それぞれの遊びを絵カードで表示することによって、子供の心を惹きつけて、何がしたいのか見通しを持つことができる。（先生ごっこ）

・一人一人の名前の枠に５個ずつ丸いシールを貼っていき、一目見て多い少ないが比較できるような点数表示の工夫によって、勝ち負けがどの子にも理解できる。（先生ごっこ）

②互いのことばの理解が図れるような支援

・劇の練習の中で、身振りや手話を入れてコミュニケーションを図ることによって、ことばの理解を深めることができる。（劇あそび）

・子供が覚えやすいように、教師が手話や身振りを使って短めの指示を出すことによって、子供が活動の流れをつかむことができる。（先生ごっこ）

・遊びが変わっても活動のパターンを同じにすることによって、子供が活動の流れを覚え安心して進めることができる。（先生ごっこ）

③子供の興味・関心を生かした身近な生活の中からの教材選定

・日常的な遊びを活動として取り上げることによって、子供たちに意欲的に取り組ませることができる。（先生ごっこ）

・身近な存在である「先生」をごっこ遊びの役として設定することによって、子供たちの興味・関心を高めることができる。（先生ごっこ）

④活動の意欲を高め、子供同士のやり取りを促す教材や場の設定

・子どもの気持ちや思いを生かしたせりふ作りをすることによって、活動意欲を高めることができる。（劇あそび）

・教師の遊び方のモデルやエプロンなどの小道具を活用することによって、子供の意欲を引き出すことができる。（先生ごっこ）

＜配慮事項＞

・劇遊びのように意図的に場面を限定した遊びを取り入れた場合、それで終わりではなく、おいかけっこやいろいろなごっこ遊びに発展させたり、普段の生活の中で使えるように働きかけることが必要である。

・パターン化したやり取りが定着してきたら、子供のつぶやきや発見を取り上げ、次第に子供同士のやり取りに発展させることが大切である。